

テーマは「**優しさ**」住まいの福祉について考えます。 優しさ通信NO. 1
ここでは障害者のことを、「障がい者」と記しています。ご理解ください。

平成26年2月の「優しさ通信」

シニア消費 伸び鮮明 — 60歳以上の世帯46%占める

企業、市場発掘急ぐ



年280兆円規模の国内消費で、60歳以上の高齢者を世帯主とする家計の存在感が一段と高まっています。

政府の家計調査によると、2013年11月の2人以上の世帯では、65～69歳の消費額が前年同月比8.3%増え、全世帯の伸び率(2.1%)を上回りました。

60歳以上の消費額は、全体の5割近くを占めるようになりました。

(2014年1月9日 日本経済新聞記事から抜粋)

「見守り」進化 病気も発見 — 遠隔地の親 ITで安否確認

トイレの回数増→糖尿病?

水道や血圧計と連動 利用状況を解析



郷里で暮らす年老いた親は無事だろうか。インターネットで見守るサービスが進化しています。これまでは安否の確認がせいぜいでしたが、いまや日々の暮らしの様子や、病気の兆候までわかるようになってきました。

(2014年1月25日 日本経済新聞記事から抜粋)

介護製品、開発案を提案 — 中小経営者ら 大阪市の研究会で



大阪市は新たな介護機器などの開発に向け、企業などから開発案を募る研究会を始めました。

(2014年1月29日 日本経済新聞記事から抜粋)